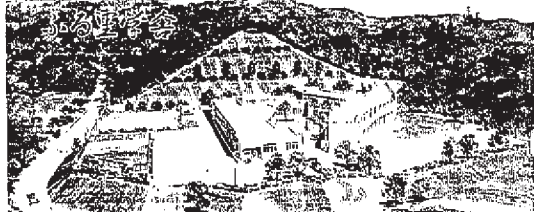


社会福祉法人 佐啓会



佐 啓

社会福祉法人 佐啓会 ふる里学舎

〒290-02 市原市今富1110-1

☎0436-36-7611

発行者 里 見 吉 英

編集者 三 股 金 利

春はたけのこ

二 股 金 利

雨の中、二人並んで座る。たばこを差し出すと手刀を切り、それに火を点けうまそうに吐き出す。旬を迎えた筍は毎朝寮生と職員で掘っているのだが、春の雨で一斉に土を割り出した。

言葉のない彼は身振り手振りで今日はいっぱい出てるぞと帰ると報告した。お前も一緒に来いという意思がありありと見えた。仕方がない。

実習竹林は車で十分弱、八千平方メートルの広さである。足元は悪く作業はこたえる。ほとんど濡れ鼠であるが、彼はトリユフを捜す豚の如く次から次と見つけては掘り出す。背の高い孟宗竹が揺れる度に雫がボタボタと落ち、薄暗い中で無言の作業が続く。「一息入れよう」私の弱音で手を休めたのだ。

「生きんがための盗み」こう新間に載った彼は、神社の境内などで寝泊まりし、食べ物を買うために小銭を盗んでは警察のお世話になる繰り返した。身よりも無く、一度知的障害者の施設に入ったが、口がきけなかったため他の入所者とうまくいかず数カ月で飛び出した。

公判では弁護側だけでなく検察側も論告に先立ち、彼の不幸な生い立ちや障害を考慮にいれ、情状酌量を求める異例の措置がとられた。

た。

平成五年の暮れのこと、刑事さんに伴われここに来た。言葉の無さが我々の疑心暗鬼を増幅する。

「ここでの生活に満足するのだろうか」「いつかふつと姿を消すのでは」そんな心配を知ってか知らずか、今でも寮生との生活が続いている。もうかれこれ三年半：頭にタオル、スコップを持つと現場の指揮官の風貌。

時には彼からお声がかかる（といつても手振りだが）。飲みに行こうとか、館を食いにいこうと、施設長への直談判が早いという交渉なれもシャバでの成果。

こうしたつき合いで心配も薄れてはいたのだが、たつた二人になり山に入っていると、哀れみや自山で幸せ過ぎる不安や訳の分からない感情の混沌、同時に累犯の彼に無垢をも感じさせる複雑な心境になってしまった。

沢山の収穫とともに泥棒除けの鉄条網をまたくと、シャバに出たような錯覚。しかし、それを食べようとかが売って儲けようとかは無関心。ひたすら見つけ出す喜びと掘り出す面白さにひたっているように朝飯前にでかける。

そろそろ珍しさも失せ、シーズンも終わろうとしている。山の緑よりも先に春を味あわせてくれた筍。

見向きもされなくなつた頃に顔を出したものが竹として成長している。

(指導課長)



「無題」

山田 温道

「リンリン」。「・・・」久しぶりに早目の帰宅でそろそろ夕餉のとき、晩酌でもやろうかなと思つてるところへ電話のベル。

「ふる里学舎ですが……ドキッ。」「又、何か賈治がしでかした？」と一瞬ひらめく。幸運なことに受話器のむこうからは、そんな事ではなく、この原稿の依頼のことでした。内容については、父親の目からみた諸々についてとのことですが、私にとつて、父親と云うには余りにも未だ日が浅すぎるのです。というのは、実は賈治の父親になつて一年も経っていないのです。（平たく云うと、昨年賈治の母親と再婚したばかり）そこで「無題」とさせて頂き所謂「企業戦士」から「市民としての社会復帰」を目指し、この障害者の世界に入り込んで来たかについてペンを執りたいと思います。

それには、公私両面の影響があるろうかと思ひます。即ち、職場と家庭生活の両方に起因するものです。先ず職場について。

東京オリビックの翌年学校を卒業して今の会社に入社。能があるのか無いのかズルズル以来三十二年が経ち、そろそろ定年という時期です。業種は管工事業。冷暖房や給排水設備、ハイテク工場のクリーンルーム等の設計・施工を業としております。初め設計・積算を仕込まれ、工事部へ。当時の建設現場は休日が第一と第三日曜日だけ。それも駆け出しの現場監督はなかなか二日も休めません。又、現場で働く職人と云えば、ダボシャツにニツカズボンが通り相手をきかせていた時代。こわかった。ところが不思議というか面白いものというか、何故か私はそんな荒くれと一脈通じるものがありすぐに仲良くなれたものです。

現場監督も数年すると勘どころが見えて来ます。いよいよ会社で利潤をもたらす企業戦士となつてゆくのです。工事現場の代理人（現場監督）から内勤になり、工事課長・部長の道を歩むのが私共の一般的な昇進の道です。パブル全盛の頃部長職を夜夜寝目一杯働き、よく身体がもつたものです。丁度世が平成に変わった頃のことです。

「ここまで伸びたんだから会社が『社会』に貢献してもバチが当るまい」なんて大そうな事を私が考え始めたのは。ところが、従業員

千人程の会社ですが一介の社員の見解などケシ粒の様なもの。月並みですが、私はその辺りに会社以外を求め始めたようです。

一方私的な面については（ペンを執りにくいのですが）十年程前義母が脳梗塞で倒れ入院をくりかえし、数年間自宅で要介護生活をし、天寿を全うしました。家庭での快くなる見込みのない患者の介護は、それは大変なものです。家の中はあちこちに手摺りを取り付けたり、段差をスロープに改めたり、まるで道楽のように考えつく事をやりました。ところが段々体力が弱まり、切角設けたお風呂場の腰掛けも洗剤の置場になる始末。義母ですから女性です。始めの頃はイヤがっていたものの、いつの頃からか私に入浴やおむつの交換を頼む様になりました。世話をして貰って気持ち良くなった時のあの表情は今でも忘れられません。

企業戦士から「生活者・市民への変革」の悟りはこの様な背景によるものと思われれます。尤も、格好よく書けばその通りですが、実は、障害者をもつたばかりに人並み（？）の生活も出来ずにいる母親の、一生懸命生きている姿に惚れこんで賈治の父親になったのかも……

これからは、賈治の世話を中心に、今はピンピンの、新しい義母の面倒をみながら、市民生活をしてゆきたいものです。

新任の職員を迎え、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

今回はその一部を掲載します。

参加者は次のとおりです。

施設長・里見吉英、安藤美和子、星ワカコ
水野智子、伊東伸之輔、山田達也、林博樹
司会・堀口貴宏

司会 里見吉英 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

星ワカコ 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

水野智子 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

伊東伸之輔 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

山田達也 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

林博樹 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

堀口貴宏 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

里見吉英 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

安藤美和子 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

星ワカコ 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

水野智子 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

伊東伸之輔 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

山田達也 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

林博樹 里見吉英さん、講義と各科・厨房での三週間の研修も終了したところで施設長を囲んで座談会を企画しました。

しく感じなければいいと思いますが、星君に寮生さんには私達をどう呼んでもらえないのですか。

施 先生と呼ばせないところもありますが先生としか呼べない人もいますので違和感がなければ何と呼んでもいいのではないのでしょうか。

安 強要することはないと思います。

安 私が学舎に入り一審屬しかつたことは職員の方が新人の私の名前をすぐに覚えてくださったことです。職員の一人として存在を認めてもらえた気がしました。だから私も寮生さんの名前を早く覚えてみたいと思います。

同じことを何度も聞いてくる人がいるのです。繰り返して返答することで本人の負担にはならないのですか。

林 私もどういう気持ちで繰り返し同じことを言うのか分かりません。

水 抑制するのは相手にとっては苦痛な気がするし全て受け止めることも難しいと思います。

星 どのような対応が望ましいのですか。

施 人が一番苦痛に感じることとは何だと思えますか。

安 存在を認められないことだと思います。

施 そう、無視されること。同じことを繰り返し言うことで職員と関係を持つようとしている。自分を認めて欲しいという訴えであると理解してあげたらどうでしょう。

山 どの程度まで聞き答えをすればよいのですか。

施 その時の自分の状況を考え無理せず受け入れればよいでしょう。

伊 自閉症の方がパニックをおこしたときはどのような対応がベストでしょうか。

施 抑さえすぎても許容しすぎてもダメ。一人ひとりの性格が違うので、ある程度の経験が伴わないと難しい。これからの付き合いから判断できるように欲していますね。

伊 まだ自分に余裕がないので感情的になって押さえてしまう気がするのですが。

施 感情的にならないと伝わらない部分は確かにあります。しかし、感情が過ぎて危険です。冷静な目を持ち最初のうちは余り無理はしないことです。

水 私も感情的になってしまったことがあります。たが後で客観性をもって接することも大事だと気付きました。

伊 彼等と接する上で重要なことはどんなことですか。

施 沢山あり一口で言うことはできませんが、特に強く思うのは寮生の中に好き嫌いをつけないこと。まして好きな寮生さんを中心に仕事をするのは論外です。人間同士なので苦手な人ができてしまうのは当然ですが、そこで行動にでるか飲み込むかで職員の価値が決まってくると思います。

林 寮生さんが職員を見て動いている感じがするのですが。

施 始めの頃は自分が甘いから一置かれないう思いに陥りやすいのですが、それは危険な考えにつながりやすい。どれだけ信頼関係がとれるかが大事なことです。

水 障害の重い方はどのくらいこちらの言葉を理解しているのですか。

伊 逆に言葉のある寮生さんは全て理解しているのですか。

施 理解していないことが多い。というのも言葉は知っていてもその意味まで深く理解していることは少なく、理解しているはずだという前提で本人に接するとプレッシャーになってしまうことも少なくありません。

山 付き合っていくうちにどれくらい相手が理解しているのかわかるものですか。

施 本人の状態というのには変わってくるもので、今見えていることが全てなのだと考えてはいけません。重度の方は理解ではなく、喜怒哀楽がある以上人との付き合いは必ずできるはず。ただ出来る範囲が狭いだけのこと。

情緒的なのですね。星君のように接すればよいのですか。施 相手にプレッシャーをかけないよう心がけるべきです。障害の重い人でもミクロのスピードで発達していることを忘れないで欲しい。

司 他に気付いたことはありますか。

林 お風呂を楽しみにしている方が多いので細やかな対応でゆつたり入ってもらいたい。

山 私も床屋で洗髪してもらった時どうすれば気持ちよく洗うことができるか観察するようにになりました。(笑)

施 何でもできる限りの最高級のことをして欲しい。

安 最高といえども食事本当にいいです。施 皆さんも実際に厨房へ入り食事をつくる苦労がわかったと思います。私もこの食事は最高だと思えます。いろいろなことを少しづつよくすることでトータル的なケアをすることが必要です。皆さんの新鮮な感覚で、これは、と思うところを改めていくようにして下さい。

編集後記

ほかほか陽気のせいなのか立て続けに大きな口を開けている眠そうなお顔。

朝早い荷捌りにもかかわらず「いっぱい採れた」と楽しそうに話してくる誇らしげなお顔。

期待と不安が交差する中、奮闘しているフレッシュなお顔。

万華鏡のように様々な顔を見せる、その表情こそが春の魅力の一つである。

今回は新たな一歩を踏み出したフレッシュなメンバーにスポットを当ててみました。

春にとどまることなく、学舎の魅力となるように……

堀口 貴宏